

トピックス

「第9回日仏鉄道共同研究セミナー」を開催しました

「第9回日仏鉄道共同研究セミナー」を12月3日に開催しました。鉄道総研は、1995年にフランス国鉄（以下、SNCF）との共同研究などに関する協定を結び、以降各技術分野における共同研究を進めています。共同研究セミナーは、2年に一度開催し、共同研究に関わるマネジメント、成果の報告および今後の計画策定を目的としています。

今回のセミナーでは、SNCFより、ピエール・イザール (Pierre Izard) 副総裁、キャロル・デノー (Carole Desnost) 研究革新局長、鉄道総研からは渡辺郁夫理事長、古川敦理事をはじめとし、双方の各分野の研究者計40名が参加し、マネジメント会議とプレゼンテーション会議を行いました。なお、当初は日本で開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大による渡航制限のため、ウェブによるオンライン形式で開催しました。

マネジメント会議では、イザール副総裁および渡辺理事長をはじめとするSNCF・鉄道総研の幹部が参加し、鉄道総研から2020年度開始の「基本計画 RESEARCH 2025」

の概略ならびにAIなどのデジタル技術の活用に関する取り組みについて紹介し、SNCFから研究プロジェクト「TECH4RAIL*」の概略、エネルギー関係として「15年後の脱炭素を目指したSNCFの取り組み」について紹介がありました。今後はAIの活用などについて引き続き情報交換を進めることとしました。

プレゼンテーション会議では、両組織の研究者が2018～2020年実施の共同研究テーマ2件と情報交換テーマ8件の成果、および2020年から2年間で実施する共同研究テーマ2件と情報交換テーマ8件の計画を発表し、活発な議論が行われました。「旅客流動・旅客行動を考慮した列車運行」では、列車遅延予測のために使用する機械学習のデータ量やその精度について議論が交わされ、機械学習のような新しい技術の鉄道への応用に対する参加者の関心の高さがうかがわれました。

※ SNCFが2016年から実施中の研究開発計画で、目標の一つとして「脱炭素化」が定められています。



マネジメント会議（上段中央：鉄道総研 渡辺理事長）